

アジア科学技術コミュニティ形成戦略：機動的国際交流事業

1. 提案事業概要

【事業名】	第二回東シナ海の海洋環境とその健全な将来を考える国際ワークショップ
(英語名称)	The second workshop on Marine Environment in the East China Sea and Its Sound Future
【提案者氏名、役職、機関・部署名】	松岡数充, センター長・教授. 長崎大学・環東シナ海海洋環境資源研究センター
【事業形態】*	(1) 国際集会の開催
【実施期間】†	2010年 2月 7日～ 2010年 2月 8日 (2日)
【実施場所】†	福岡県・福岡市
【参加国・地域】†	日本, 中国, 韓国, 台湾, ベトナム 等 5ヶ国・地域
【事業概要】	<p>東シナ海は、日本、韓国、中国など、経済活動の活発な国に囲まれた縁辺海であり、特にその大陸棚域は陸起源水の拡がり域であり、生物生産が高く、古くから水産資源が豊かな海域として知られてきた。近年、漁業資源量の減少が深刻な問題になっていると同時に、海洋環境の劣悪化についても危惧されている。同海域は各国の排他的経済水域や漁獲活動の暫定水域など、複雑な管理区域に覆われているが、自然現象としては海洋中に境界はなく、海洋環境の面からは海水やそこに含まれる物質が自由に行き交うひとつに繋がった海域として理解する必要がある。そのためには周辺諸国の研究者がそれぞれ可能なデータと知見を持ち寄り、高度なレベルで情報交換を行うことで、環境に対して共通認識を構築していくことが不可欠である。</p> <p>このような背景の下、科学技術振興調整費・アジア科学技術協力の戦略的推進・地域共通課題解決型国際共同研究により、「東シナ海有害赤潮の日中韓国際連携研究；平成18年度～平成20年度、代表者；松岡数充（長崎大学）」と「協調の海の構築に向けた東シナ海の環境研究；平成19年度～平成21年度、代表者；松野 健（九州大学）」が推進されてきた。両課題は東シナ海を研究フィールドとしつつも、それぞれより個別の課題である「有害赤潮」や「栄養塩の挙動と流れ」に取り組んできた。しかしながら、環境理解を踏まえた東シナ海の管理は個別課題に取り組むだけでは不十分であることは言うまでもない。</p> <p>これを踏まえ、両課題は2008年12月5、6日に九州大学筑紫キャンパスで「The Workshop on Marine Environment in the East China Sea and Its Sound Future」を開催し、相互理解を深めると共に、JST事業終了後も交流を深めることとした。昨年度に終了した「東シナ海有害赤潮の日中韓国際連携研究」の事後評価では「有害赤潮の原因である富栄養化の抑制等を含めた海洋環境の共同管理の計画立案について、具体的対策に向けた調査研究をさらに推進すること」が求められていることから、東シナ海の流れと栄養塩挙動を課題としている「協調の海の構築に向けた東シナ海の環境研究」との情報交換は必須であると判断した。</p> <p>以上の状況を踏まえ、事業継続中である「協調の海の構築に向けた東シナ海の環境研究」との協働を今後見向けて一層加速するために、両課題で「The second workshop on Marine Environment in the East China Sea and Its Sound Future」の開催を提案することにした。</p>